

立木 美江さん 『職人をインバウンドで支援する「nihonga project」』

取材をした令和8年2月24日は、冬の寒さが残る雨の1日でしたが、立木さんが事業を営む六本松は、スーパーやカフェなどが賑わい、路地裏まできらきらとしているように感じました。九州大学教養部が1994年に廃止されてから、六本松の町の力がどのようになるのか心配していましたが、2005年に七隈線の六本松駅が開業したこともあり、また六本松のまちづくりに取り組む若い事業者の皆さまのご尽力によって、便利でかつ「歩いて楽しい」町へと変化したことを感じました。

今回の取材対象である立木（金石）美江さんは、実績豊富な日本画家。そしてご主人の金石智宏さんはデザイナーであり、また、上記の六本松の若い事業者を支える六本松商店連合会の事務局長でもあります。取材は、六本松の路地裏にたたずむ、立木美江さんの「本格的な日本画体験ができるアトリエ『野の間（ののま）』」で、ご主人の金石さんにサポート頂きながら、立木さんに質問する形で行いました。

まずは、起業の経緯について、聞いてみましょう。気になるところです。

【起業の経緯】

（以下、敬称略）

Q1 立木さんは、日本美術院・院友で、ご実績豊富な日本画家ですが、会社を設立されるまでの、日本画家としての日々の生活を教えてください。

立木 院まで卒業して東洋美術史の博士号を取得したので、28歳まで大学に在籍、美術史の研究と論文を書きながら絵を描いてきました。公募展にチャレンジし、グループ展に参加し、ご縁があったギャラリーで個展をし、最初に百貨店での特集展示（美術市の特別ブース）をして頂き、また個展も実施しました。40歳くらいまで、こうして画家としてのキャリアを積んできました。あわせて、日本画を習いたい方への絵画教室の講師もやってきました。

Q2 ビジネスプランコンテストへ出場を決意した経緯を教えてください。

立木 日本画材がなくなるという社会問題に直面したときに、これを解決するためのソーシャルビジネスを学ぶコミュニティに参加し、卒業のタイミングでこのビジネスプランコンテストの発表をできる場所を探していました。

Q3 福岡よかとこビジネスプランコンテストで令和5年度大賞を受賞されました。反響はいかがでしたか？

立木 受賞をきっかけに様々な場所でプレゼンをさせて頂き、弊社の事業を多くの方に知ってもらうきっかけを頂きました。ワンビルにある福岡県のスタートアップ支援拠点「グローバルコネクト福岡」や、中小企業庁のセミナーなどです。



立木 美江さん



【野の間の外観】

Q4 なぜ起業をしよう、会社を設立しようと思われたのですか？

立木 社会問題をより多くの人に知ってもらうため、事業に責任を持って取り組むために法人化が必要だという考えに至りました。日本画を描く環境を持続するためには、日本画材が必要。シンプルですが、とても大切なことだと思います。実際に起業してみた感じも聞いてみましょう。

Q5 事業計画等、起業をされる準備をどなたかに支えて頂きましたか？支えて頂いた方はどのような方ですか？

立木 夫が既にシンプルスマイルというデザイン会社を設立していたので、彼の支えによって、事業の実行や広報、提案などの部分で、多分に支えられたと思います。

【会社や事業】

Q6 令和6年1月に合同会社野の画家（ののがか）を設立されました。「野の画家」という屋号にはどのような思いが込められていますか？

立木 日本画の歴史を振り返ると、無名の作家の作品も多数名品として残っており、誰も最初は野の画家として活動するということに気づき、この啓蒙も含め、屋号とさせて頂きました。

Q7 会社設立から約2年間を振り返って、思い出すこと等ありましたら教えてください。

立木 よかそこ起業支援金を活用し、倉庫と化していたアトリエの一間をリノベーションすることで、日本画体験空間「野の間（ののま）」を開業することができました。期待していたとおり海外の方、国内の方、日本文化に興味がある方など多くの方に、日本画を体験して頂けました。皆さんご満足頂けているようで、大変嬉しく思っています。
野の画家という屋号の背後に、日本画家としての矜持があることを知りました。日本画では絵を描くことを写生と呼んでいるそうです。「生」を「写」すこと、野の中から画家は生まれるのだと思いました。事業への取り組みなどについても、一步踏み込んで聞いてみます。



【日本画を描く画材や道具】



【日本画体験の風景】



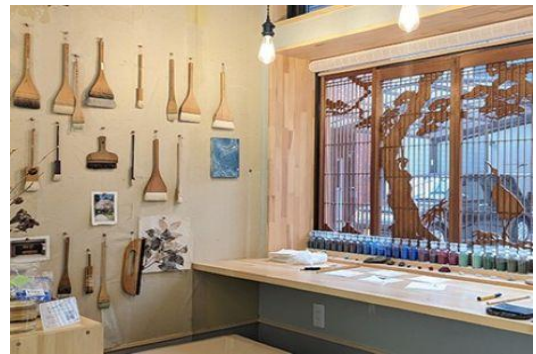
【写生の風景】

Q8 私もお邪魔しましたが、「野の間（ののま）」という日本画体験ができるアトリエを運営されています。専門性の高い日本画というアート分野において、アトリエを公開すること、未経験者に日本画を体験頂くことには結構思い切りが必要ではなかったでしょうか？

立木 これまで開催してきた日本画の絵画教室での事例や、遠方で行ってきた子ども向けの日本画体験ワークショップなどの経験も踏まえ、とにかくわかりやすく、敷居を下げるということに注力し、カリキュラムとサービスを構築しました。

Q9 小学校の日本画体験や、前記の「野の間」では外国から来られた観光客の方も多いと伺っています。街歩き途中に「野の間」に立ち寄られる方も見受けられ、幅広い層に事業を展開されていると感じました。日本画、そしてそれを支える職人さん、画材などを伝えるターゲットを、どのように設定されていますか？

立木 カラフルな日本画材のディスプレイや、WebやInstagramでの広報も含め、この場所と体験に興味を持った「アートや日本文化が好きな方」に、まずはお届けしたいと思っています。



【野の間室内1】

Q10 ホームページの事業の全体像では、体験アトリエ「野の間」に加えて、観光コンテンツ「野の和（ののわ）」、日本画教室「野の学（ののまなび）」なども今後の方向性として描いておられます。事業展開の準備状況や、またこれに対する課題などありましたら教えてください。

立木 野の間や野の和で日本画を初体験した方に、オンライン学習として、野の学を提供していきたいと考えています。ここで日本画を学んだ方が作品を発表できる日本画継環（けいかん）展※も立ち上げ、作品の発表や販売、コミュニティの形成を予定しており、更なる日本画の輪／和／環（わ）を拡げていきたいと思っています。
久留米と直方で野の和のサービスがスタートしており、現地のトレーナーさんによる日本画体験を実施しております。

※日本画継環展サイト→ <https://keikanten.com/>

Q11 今後の事業の展望、目標などありましたら、教えてください。

立木 令和8年度は、継環展に490点のエントリーを頂き、セクションされた展覧会を4月銀座、5月六本松で開催します。これにあわせて、野の学を事業構築して参ります。野の和のスポットも、パリ、長崎、滋賀で展開予定です。六本松から、長崎、滋賀、銀座にパリと野の画家の事業が大きく羽ばたいていく姿が見えてきました。実は筆者も1月に日本画体験にお邪魔させて頂き、そこでは「空飛ぶひよこ」（題名：ひよこ、飛ぶ。）の絵を描きました。事業の先行きを予感させたのかも！？これにて取材は終わりますが、最後の最後に、よかところ起業支援金の用途と、何か告知することなどありましたら、聞いてみましょう。

【起業支援金】

Q12 よかところ起業支援金の用途について教えてください。

立木 アトリエの改装、店舗化に使いました。店舗ディスプレイに力を入れ、壁面に絵の具を飾るなど「映える（ばえる）」日本画体験空間を整えました。



【野の間室内2】

Q13 最後に事業の告知をお願いします。

立木 日本画体験空間「野の間（ののま）」は、事前にご予約を頂けたら、どなたでも日本画材や、日本画への学びを深めることができる場所になっております。ぜひ、日本画に触れたい方はまずは体験頂けますと幸いです。今後は、各家庭に1枚、日本画を飾って欲しいと期待しており、福岡市で展開する一人一花（ひとりひとはな）運動のような一家一日本画運動にも取り組んで参りますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します

事業所情報

事業者名 合同会社野の画家（ののがか）

住 所 福岡市中央区六本松1-10-36

電話番号 092-741-4505

営 業 日 ホームページにてご確認ください

ホームページ

→ <https://nonogaka.net/>